能の出演者 Performer of Noh

1 シテ 物語の主役です。演出も行います。

2 ワキ シテの相手役です。

3 後見（こうけん） 舞台の監督役です。

4 地謡（じうたい） 謡のうち、シテやワキのセリフ以外の情景や心情を描いた部分を担当します。

5 囃子方（はやしかた） 舞台上で楽器を演奏します。

アイ … 能の前後場の間をつなぐ狂言をアイ（間狂言）と呼びます。

能楽体験・字幕解説サービス「能サポ」のご案内

「観能の夕べ」をよりお楽しみいただくため、公演前に解説や能楽体験を実施します。能楽体験は予約した方が対象となります。
また、スマホや貸出タブレットを利用した字幕解説サービス「能サポ」も無料でご利用いただけます。※詳しくは石川県立能楽堂のホームページをご覧ください。

■ 時間：各回12：30～（40分程度）※12：00～受付開始
■ 定員：各回20名程度（3/9の囃子体験のみ6名）
※要事前申込・先着順
■ 料金：無料（当日の鑑賞者に限ります）
※足袋をお持ちの方はご持参ください。
■ お申し込み／お問い合わせ：
県立能楽堂 TEL.076-264-2598

「能サポ」使用イメージ

◀字幕解説サービス「能サポ」は事前にこちらのQRコードから「G・マーク」アプリ（無料）をダウンロードしてください。

開催日	内　容	講　師
1月27日（土）	狂言体験	能村 晶人、中尾 史生
2月 3日（土）	謡・仕舞体験	髙橋 憲正、佐野 玄宜
2月10日（土）	謡・仕舞体験	佐野 弘宜、木谷 哲也
3月 2日（土）	囃子体験（小鼓・大鼓）	住駒 俊介、飯嶋 六之佐
3月 9日（土）	囃子体験（笛・太鼓）	室石 和夫、麦谷 暁夫

金沢能樂美術館 関連行事

「冬の観能の夕べ プレ講座〈全2回〉」

参加無料（要観覧料、要申込）

金沢能楽会の人気能楽師が、能の見どころを分かりやすく紹介します。

第1回　1/27（土）10：30～11：30
講師：髙橋 憲正
［解説演目：1/27・2/3の能］

第2回　2/10（土）10：30～11：30
講師：木谷 哲也
［解説演目：2/10・3/2・3/9の能］

■ お申し込み・お問い合わせ：金沢能樂美術館 TEL.076-220-2790
※詳しくは金沢能楽美術館のホームページをご覧ください。

アフタートークのご案内

公演終了後に、当日の公演について出演者と楽しくお話ししてみませんか？ 参加をご希望の方は事前に県立能楽堂へご連絡ください。当日の飛び入り参加も大歓迎！

第1回　1/27（土）
講師：能村 晶人、中尾 史生

第2回　2/10（土）
講師：髙橋 憲正、平木 豊男

■ 時間：各回公演終了15分後より30分程度
■ 料金：無料（当日の鑑賞者に限ります）
■ 会場：見所
■ お問い合わせ：県立能楽堂 TEL.076-264-2598
※詳しくは石川県立能楽堂のホームページをご覧ください。

◀石川県立能楽堂ホームページ

写真提供：（公社）金沢能楽会

金沢駅兼六園口（東口）6番のりば　北鉄バス 出羽町バス停より徒歩3分

世界無形文化遺産　能楽

冬の観能の夕べ

Kaga Hosho Noh Theater

今触れてほしい伝統文化がここにある

全5回　2024 1/27（土）▶3/9（土）
14：30開演（13：30開場／16：00～16：30頃終了予定）
※詳しい日程は中面をご覧ください。
※終了時間は演目により異なります。

各公演／前売 1,000円　当日1,200円

チケットのお求め
石川県立能楽堂（076-264-2598）
石川県立音楽堂チケットボックス（076-232-8632）
金沢能楽美術館（076-220-2790）
香林坊大和プレイガイド（076-220-1332）

※石川県立能楽堂以外でのチケット販売は各公演日の3日前までとなります。
※高校生以下無料。ただし、入場券が必要となります。
入場券は石川県立能楽堂でお求めください。

能楽体験（全5回）※詳しくは裏面をご覧ください。

主催／いしかわの伝統文化活性化実行委員会

会場・お問い合わせ／石川県立能楽堂 TEL&FAX 076-264-2598 〒920-0935 金沢市石引4-18-3

文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan
日本博
令和5年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）

国と県の補助により、お手ごろな料金で本格的な伝統芸能を特別にご鑑賞いただけます。

日本の伝統美と幽玄の世界に浸る世界最古の舞台芸術

能楽とは What's Nohgaku?

「能楽」は、継承されている演劇としては「世界最古」といわれる日本独自の舞台芸術で、「能」と「狂言」から成ります。日本で最初にユネスコ無形文化遺産に登録された世界が認める伝統芸能です。

「能」では、笛や鼓による演奏と地謡と呼ばれるコーラス隊の謡にあわせて舞台上の人物が舞いながら物語を展開します。一方「狂言」は、庶民の日常生活を題材とした喜劇であり、会話を中心に物語が展開します。

加賀宝生 Kaga Hosho

江戸時代、能は幕府の式楽となり、各地の藩でも能が盛んになりました。加賀藩前田家は能の宝生流（5流派の1つ）を手厚く保護・育成し、庶民にも広く推奨したことから、今では金沢といえば「加賀宝生」と言われるほど、発展を遂げています。

石川県立能楽堂 Ishikawa Prefectural Noh Theater

能楽文化の保存・継承及び振興の拠点として、昭和47年全国初の独立した公立能楽堂として開館し、昨年50周年を迎えました。能舞台は、昭和7年に建てられた金沢能楽堂本舞台を移築したもので、国の有形文化財に登録されています。

石川県立能楽堂ホームページ
https://noh-theater.jp/

公演予定 Scheduled performance

1/27（土）

〈仕舞〉野宮（ののみや） 渡邊 茂人

〈狂言〉雷（かみなり） 能村 晶人

都での商売がうまくいかないやぶ医者は、生活の拠点を奥州へ移すため長旅に出ます。武蔵野に差し掛かった時、突然雷鳴がとどろき、目の前に雷様が落ちてきました。腰を打ってしまい苦しんでいる雷様に、医者は治療を施しますが…。

〈能〉須磨源氏（すまげんじ） 木谷 哲也

日向の国の神官・藤原興範一行は須磨の浦で、源氏物語ゆかりの「若木の桜」を眺める老樵と行き会う。老人は光源氏の生涯を語り、光源氏の来臨をほのめかして消える。やがて兜率天に住まう光源氏が降臨し青海波の舞を舞ううち、夜明けとともに消えて行く。

2/3（土）

〈仕舞〉八島（やしま） 佐野 玄宜

〈狂言〉不腹立（はらたてず） 炭 哲男

二人の施主が旅の僧を呼び止め、在所のお堂の住持になるように頼みます。僧は彼らの問いにとぼけた答えを返していましたが、名前を問われると、「腹立てずの正直坊」と出まかせに名乗ります。

〈能〉黒塚（くろづか） 佐野 弘宜

旅の途中の山伏たちは、日が暮れたので近くのあばら家に宿を借りる。決して寝室を覗かないようにという女の言いつけを破り、中を覗くと、そこには死体の山。逃げる山伏たちに、鬼の本性を現した女が追いすがる。

2/10（土）

〈仕舞〉網之段（あみのだん） 島村 明宏

〈狂言〉苞山伏（つとやまぶし） 清水 宗治

山人と山伏が昼寝をしている所に通りかかった男が、山人の弁当を見つけ食べてしまい、山人が目を覚ましたため、寝た振りをします。山人は、弁当がなくなっていることに気づき、「誰が弁当を食べたのか？」と狂言には珍しい推理劇のようなお話。

〈能〉小鍛冶（こかじ） 髙橋 憲正

帝より刀を打てとの勅命を受けた三条の小鍛冶宗近。相槌不在の窮地にある宗近は、稲荷明神に参拝し助けを求める。すると霊狐が現われ、見事に相槌を務め、名刀「小狐丸」を打ち上げる。

3/2（土）

〈仕舞〉枕慈童（まくらじとう） 福岡 聡子

〈狂言〉長光（ながみつ） 炭 光太郎

市場を見物して歩いていた男に、見知らぬ髭の男が近づいてきて、太刀を盗もうとします。怒った二人のもとに駆け付けた目代に男が事情を話すと、それを盗み聞きした髭の男も同じように目代に事情を話します。

〈能〉巴（ともえ） 藪 克徳

都へ向かう旅の途中、僧は神社の前で涙する女と出会う。女は神社の祭神が木曽義仲であると教え供養を勧めて消える。僧が弔いを始めると、武者姿の女が現れ、自分は義仲に仕えた巴の霊であると明かし、義仲の最期や奮戦の有様、女であるが故に最期の供を許されなかった無念を語り去って行く。

3/9（土）

〈仕舞〉岩船（いわふね） 松田 若子

〈狂言〉清水（しみず） 中尾 史生

主人から清水を汲みに行くよう命じられた太郎冠者は、面倒なので、鬼に襲われたふりをして帰ります。しかし主人が、冠者が置いてきた家宝の桶を取りに行くと言い出して…。

〈能〉藤（ふじ） 葛野 りさ

盛りの藤の花に見惚れ、古歌を口ずさむ僧に藤花の化身は難を付ける。その夜、僧の夢に藤の精の本性が現れ、舞い戯れるうち朝霞と共に消えて行く。